

しでがの通信  
 第 53 号  
 羽津小 P・T・A  
 編集発行  
 発行所 羽津小学校

羽津小の卒業生に贈る

ちよっとのぞいてみてください。  
 この中に、あなたのお子さんのしあわせに  
 つながる何行かがたしかにあるはずですよ。

ほんとうに美しいものは

目に見えない

四日市市教育長 市川一郎

みなさん！ 卒業おめでとう  
 ございます。この六年間に、みな  
 さんは、ほんとうにりっぱに成長  
 されました。これはみなさんが、  
 毎日、一生懸命に勉強されたかい  
 があったわけですが、みなさんを  
 ここまでお導きくださった先生方  
 のご恩は、どんなことがあっても  
 忘れてはなりません。

さあ！ みんなで先生方にお礼  
 を申し上げます。

ところでみなさん！ わたしは  
 みなさんに、約束してもらいたい  
 ことがあります。それは、みなさ  
 んの、美しくやさしい瞳を、中学  
 生になっても、大人になっても、  
 おじいさんになっても、おばあさ  
 んになっても、大切にしておいし  
 いことですよ。みなさんの瞳は  
 たえようもないほど、清らかに  
 澄んでいます。それは、よごれを

つまり、わたしがいいたいのは  
 美しい心！心の瞳を大切にしてい  
 しいということなのです。

フランスの童話「星の王子さま」  
 を知っていますか。あれはサンテ  
 グジュベリーという人の作品です  
 が、この作品の中で、「家でも星  
 でも砂漠でも、そのほんとうに美  
 しいところは目に見えない」とい  
 っています。

これは、いいかえれば、ほん  
 とうの美しさは、心の瞳でなければ  
 ならないという意味なのです。  
 どうか卒業するみなさん！ほん  
 とうの美しさを見ることのできる  
 心の瞳を大切にしてください。  
 最後に、お父さま、お母さま、

またおじいさま、おばあさまの六年間の、ご苦労に対して、心から感謝してほしいと申しそえてお祝いのことばとします。

### 門出に当って

学校長 小林 文衛

卒業生の皆さん、おめでとうございます。完成した校舎をはじめ校庭の松、草木も緑の装いを新にして、皆さんの前途を祝福しているようです。

小学校の六年間を送った学舎、四季折々の自然や思い出が脳裏に焼きついていくことでしょう。特にこの一年間は、最高学年として、グリーンスクールや修学旅行、運動会、球技大会、マラソン大会等に参加して思い出も多く、部活動児童会活動等、下級生のお世話もよく出来たと思います。校舎移転の際には、荷物運搬と清掃に非常によく協力して呉れました。

ところで皆さんは、この六ヶ年に何を学んだかを、自分ではっきり確かめてほしいのです。小学校時代は、永い人生の基礎づくりの時です。今まで小学校で学び得たいろいろな力をもとにして、自分の性格や能力を見つめながら、短所を補い長所を生かすような中学校生活を迎えなければならぬと思います。

ます。さて皆さんに、生活の指針として話したいことは「豊かな心」を持ち続けたいことです。それにはまず(1)感謝の気持ちを忘れてはならない。昔からの言葉に「這えば立て、立てば歩きの親心」というのがあります。皆さんが赤ちゃんの時、這い這いがやつと出来るようになってになると、お父さん、お母さんが早く立つてくれればと願い、どうにか立つようになると、早く歩けるようになればと手を取り、身を支えながら歩くことを教えて下さいました。そして今日まで十二年間、それこそ心血を注いで育て、下さった親のご恩は、海よりも深く、山よりも高いということを決して忘れてはなりません。種々と教え導いて下さった先生や、羽津地区、四日市市に対しても同じことがいえると思います。

(2)次に心構え、気の持ち方が大切です。「涙で仰げば月も泣き、笑って見れば花も微笑」という言葉があります。悲しいとき、淋しい時に月を眺めていると、お月様も泣いているように見え、楽しいとき、嬉しい時に花を見ていると、花も笑っているように見えるというので、心の持ちかたで、同じ物でも非常に変わった感じを持ちます。毎日の生活も、中学校へ入学して多くの学習や運動をします

が、不平不満に打ち勝って、自分の考えを生かして進んでいただき度い。(3)羽津小学校には校訓として「誠実と友愛、勤勉と創造」がある。皆さんもわかっているように、うそいつわりのない誠の心と人には愛の気持で接し、仕事や勉強にはげみ、新しいものを造り出すことです。一生を通じて、心の柱として、時々思い出して下さい。

### PTAとおわかれを

目前にして

PTA会長 藤井 勝見

本年度のPTA活動も三月が来て私も子供と共におわかれの時機となりましたが、一年前お役を貰ってから、ためらいもしましたが、しかし柔和でみのある活動を決意役員さんの賛同と御協力を得まして全役員、校長、教頭先生の明るい結合で、PTA本来の目的と使命を追い乍ら充実した予想以上の活動を達成しようとして居ります。活動は言うまでもなく子供達の幸せの為の他ならないものであり、

本部をあづかる役員一同会員の皆様の積極的な御協力のおかげだと此の機会に、改めて御礼申し上げます。次第でございます。

本年度はまた学校、地区挙ての切望でありました給食室及附属設備の完備、引続いて特別教室、管理棟の増改築が予定通り完成されました。此の増改築は昭和四十二年五月を皮切りに実に五回目の工事で学校教育設備の完備となったわけでございます。

出来上った玄関から西に伸びる真新しい廊下、行届いた設備を眺める時、それは心の安らぐ親のたもとに抱かれた様な強く大きい校舎で児童にとっても永く幾年か後までとゞめ得る立派な母校であると思えます。このよろこびは長い間の幾多の関係者の御苦勞の果ての賜であり深く敬意を表する次第でございます。

最後におわかれするに当り感無量のものがあります。後年続くであります。PTAで、出合った人と活動、出合った問題の解決に大きい意義と親しみの持てる活動を切望しておわかれの御挨拶とします。



### 卒業前に思うこと

六の一父 森 茂雄

伝統のある、この羽津小学校へ子どもが、入学して早や六年、この春卒業できることを、嬉しく思います。これでこの子も中学生かと思う時、たよりない中学生だかと思うのです。私の家では、小学生の間はのんびりとさせてやりたいと、親も到って呑気に六年間過ぎて来ましたが、受験シーズンが近ずきニュース等で小学生が有名私立中学に殺到する異常とも言える現象を見て、私ばかりがおどろいているのでしょうか？そしてその子たちへのインタビューに際する発言も学歴社会を肯定するような考えを何の疑問もいれず平然と答えるのです。彼等と我子との雲泥の差を感じずにはいられませんでした。卒業後大部分の人は山手中学に入学するでしょうが一点、二点の差で人をけり落す経験をせずには進めると言うことは、幸せと思ふのです。社会全体の風潮では一流大学でなければと言った傾向があるので、それには一流の中学、高校となりますがなにも学歴が優等でなくとも人間としての優等はもつと外にあると思ひます。

これから中学高校へと進むのです、子どもが大きくなるにつれ、

親子で共通の対話も少なくなり問題になることがあります。より密接な親子関係を作り親子の対話を多く持つて親子の断絶を、なくしたいものです。そして素直で自分の行動に自信と誇りを持つて若者になってほしいと思うのです。

### 六年間の通学を終え

六の二父 長広 義則

歳月の過ぎ去るのは早いものでつい先日入学した子供がもう卒業。そこで特集号に何か一言と言われペンを取りました。

六年前会社の都合で転校して来た子供も、当時の古びた校舎、またプレハブ造りの教室で汗だくになつて勉強した事も忘れ、現在の新築校舎、管理棟を後に卒業していきます。羽津小学校も高度成長時代に児童が増え、グラウンドも狭くこれ以上校舎拡張も困難となり羽津地区に第二小学校建設の計画も進められる時となりました。

また、道路状況も数年前迄は雨降りには、ぬかるみの中を長靴履きで通学していましたが、現在は町の隅々迄舗装され小雨程度はズック履きで通学しています。多分父兄の方々が幼少時代には経験の無いことではないかと思ひます。(下駄履きが、素足ではなかったでしょうか。)

しかしながらこのように良くなつた事も喜んでおれないのが交通事故です。毎日毎日父兄が主要道路で交通整理をしなければならぬとは残念でなりません。子供の注意、ドライバーマナーで立哨を止めることが出来るようになれば子供達のびのびと通学し勉強も出来るのではないでしょうか。

最近の新聞紙上でも取り上げられました一つに、中学校のクラブ活動停止の例があります。個人の健康管理は可能な限りしなければなりません。肉体的に鍛練の必要があるのではないのでしょうか。子供達は自由の中にも規則を守つて生長してこそ健全な大人になり次の世代を背負つて行くと思ひます。

この六年間、子供達が無事に通学出来たのも、諸先生、PTAの方の絶大なる御指導の賜物と感謝いたします。

### 卒業によせて

六年三組母 T・M

寒さもやわらぎ、春の足音が、聞こえて来る様な、今日この頃、「しでの」の原稿をと言われましたので、子供の卒業によせて、ペンを取りました。

「行っ てきます」と元気に、とび出して行きました。二、三ヶ月は、学校生活になれるだろうかと、心配するうちに、一年もすぎ、低学年より、高学年になる頃には、いたずらもふえ、抵抗も、それが新しい知恵と勇気がわいて来る、一つの課程であるのだと思ひました。最後の学年ともなると、ひとかどの理屈をこねたり、おとなを批判する態度が、時々、顔をのぞかせました。でもこれが、六年間学んだ我が子の姿なのだと思ひうれしくも思ひ、又、成長の早さを目を見張る思ひでした。

これまでに、御指導下さつた諸先生に、心から御礼申し上げます。最後に

子供らよ

大きくはだたけ 大空に。

### 卒業式に思う

六の四父 土屋 博

鈴鹿の山々の白銀も、次第に岩肌を現わし始め、又郷里の庭先の紅梅も、咲き終つたであろう。今子供達の卒業式を、迎えようとしている。

卒業式……。いつになつても、忘れられない少年の日の思い出とて心に残るのは、小学校の卒業式ではなかるうか。私共の卒業式は戦時中の事で、いつ空襲警報が発

令されるかわからない非常時であつた為、簡素な式であつた。いそいで家路につかされた。戦後の高度成長の時代に生まれ育つた、今の子供達には、想像出来ないだろうが……。

思えば五年前、転校生として、見知らぬ不慣れた土地での生活で幼な心を痛めたであろう我が子も良き環境のもと、良き先生方、そして良き友達に恵まれ、明るく、のびのびと成長したことは、親としてよきことである次第です。最近やゝもすれば、親をも一喝叱責されるような場面に出合うこともしばしばあるが……。

これからは、生活環境も変わり、子供にとって、いろいろな危機も来るであろうが、その時こそ、子供を生かすことばの言える親でありたいと思う。

子供の卒業を迎えて

六の五母 下倉 美子  
卒業式も後一ヶ月に迫って参りました。

長女が重いランドセルを背負って学校へ上ったのが、まだそれほど古いことのように思えないのにもう十二年もの月が過ぎました。中学校へ進むことを既定の事実と受けとめている長男よりは、私の方が、小学校と別れることに何か一抹の寂しさに似た感傷が胸を

よぎる今日このごろです。この長い間に且つて、子供を導いて下さいました先生方の御恩と学校関係の皆様方に深く御礼申し上げます。

昔の人達が植えられた松の緑はいよいよ風格を増し、桜の木は年々新しい花を咲かせ、子供達に祝福と暖かい励ましを与えているように見えますが、私にとっては、学校のイメージでもあった、木造の校舎は次々と鉄筋コンクリート造りに変わり、年々増加する生徒で運動場が更に狭くなったように見えます。

学校の様子も、まなびや、としての、きびしさ、が年と共に失われていくように思います。押しつけのきびしさではなく、勉強にしても運動にしても、それに取り組むひたむきな姿勢というものが、もう少しあってもいいのではないかと感じたりいたします。

かつて私達の青年時代は、青年団や中学校、男子の場合軍隊生活等で、その内容の是非はとも角、勝手気振な生活の出来ない時期を過ぎねばなりません。

今は受験地獄とは言われますが精神的には過保護のまゝ大人になる人達が多いのではないのでしょうか。このことが衝動的な少年とか乳離れしていない青年とか、新聞等に見られる学生を含めた青少年の

問題となんらかのつながりがあるような気が致します。これらのことは家庭に大きな責任があるとは思いますが、学校と家庭の双方から、もう少しこの事を見直す必要があるように思います。

昨年は学校創立百周年をむかえ記念式典や、記念行事が行なわれました。この式典に参列させていただきました。百年前に、当時として素晴らしい環境の地に、立派な校舎と、広い運動場を持った、学校を建てられた明治初期の人々の教育に対する大きな期待と、努力に改めて深い感銘をうけました。この栄えある羽津小学校を卒業する子ども達の活躍と、将来を期待しつつ筆をおきます。

卒業おめでとう

一年一組担任 田岡美智子  
校庭の木々や、草花のつぼみがふくらみ、あたりは何となく春の訪れを感じさせる三月、いよいよ卒業ですね。おめでとうございませう。

月日のたつのは早いもの、まだこの前新しい「ランドセル」をさげお母さんに手を引かれて入学した時の、みんなの姿が目の前にちらついてきます。それなのにもう卒業、みんなのたくましく大きくなった姿を見ると嬉しく思います。六年間それぞれに色々の思い出

があると思います。その思い出を大切に、中学校生活への第一歩を踏み出してほしいと思います。中学校に入れば、今までと違ってとてもむずかしくなると思いますが、小学校で学習した事を土台としてしっかりとがんばってほしいと思います。

祝 卒業

一年六組担任 小林 久美  
ご卒業おめでとうございます。ことわざにも「光陰矢の如し」とある如く、本日に月日のたつのは早いものですね。

入学した当時は「ランドセルの方が大きいね」と言われた人たちがもう卒業……。今ではぐっと、たくましくなり、私などよりずっと背も高くなった人もたくさんいてチョッピリうらやましく思ったりしたときえあります。

過ぎ去った六年間には、いろいろな思い出があることでしょう。嬉しかったこと、悲しかったことそれぞれの胸にしっかりと刻み、中学生としての第一歩を踏み出してください。

お互いの友情を固く築くように努め、少しのことでもくじけず、大きな「希望」をもって励んでください。

皆さまのご幸福を心からお祈りします。

すだちのことば

六年一組

森 幸司  
たのしい六年間だった。それがもう過ぎていく。

服部 慎  
中学校になると、新しい友だちができるので、うれしい。

水越 康司  
ヤッターついに卒業だ、いよいよ中学生だ。

石田 和也  
まことにまった卒業、小学校もおしまい。小学校よさようなら。

森 信夫  
どんなことにも根気よくがんばる。

藤井 和生  
長かった六年ついに卒業、やったあ。

伊藤 直樹  
卒業してから、また、新しい友だちができるので、うれしい。

日 沖 省 三

てむずかしいから、がんばろう。

森 まゆみ  
これからは、何事にしても努力努力でいきたいと思います。

小井 千津子  
絶対に、ローラーゲームの選手になりたい。絶対！

谷山 順子  
「卒業」ということは、みんなと別れるような気もちだ。

山下 幸穂  
中学生になっても、六年間の思い出をいつまでも大切に

山村 博美  
私は、中学生になったら六年生より、もっと勉強にはげみたい。

野田 弘子  
中学生になってもいまままでおり、明るくこやかに

森 美補  
目標に向かって、進めるような立派な人間になりたい。

館 美幸  
とうとう卒業だ、自分で六年間もきたとは思えない。うれしい。

間 島 由利子  
どんな困難にも負けず、最後までやりとげられる精神を持つ。

広瀬 明美  
卒業し、中学へ入学する私の心の中は、不安と希望……。

秋山 なおみ  
走馬灯のように過ぎた六年間。でも心の中にはたくさん思い出

中学生になると、地区外に行けるが、ぼうずにするのがいやだ。

岡本 淳  
中学校で勉強にはげみ、よい高校に入り、よい大学に入りたい。

樋口 一樹  
中学生になったら緑を自然を、まもってゆきたい。

前川 裕孝  
新しく気持ちを入れかえて、勉強に、はげみたいと思います。

真野 毅  
このまま新校舎を残して卒業していくことは、くやしい。

川上 慎次  
長い小学校生活、今門が閉じようとしている今新しい門が開く。

田中 精一  
中学校に入学するのは、うれしいが、ぼうずにするのはいやだ。

佐藤 卓哉  
長いようで短かった六年間。やっと卒業だ。ばんざい。

藤田 信次  
ぼくは、世界に、名のおった人になり、世界の有名人になる。

青木 陽一郎  
卒業はうれしい。でも中学になると勉強がむずかしくなるかな。

中間 春美  
小学校を卒業するのはうれしいが、新校舎に入れないのは残念。

榎野 幸子  
中学校の勉強は小学校とちがっ

早く中学校へ行きたいな、なぜかは、入学祝がもらえるから。

山本 幸江  
やっと卒業だけど、新校舎に入れないのが、悲しいんだわ……。

山本 博美  
中学生のみなさん、わからないところがあつたら、おしえてね。

藤井 崇恵  
みんなと仲よく、たのしく中学生生活をしたい。

高木 千恵  
いつまでも、たのしかった六年間を、忘れずにいたい。

森 千加子  
小学校を卒業すると、私も、もう少しおとなっぽくなるかしら。

水谷 奈美  
楽しかった六年間。この思いでをいつまでも、忘れずにいたい。

森川 忠男  
しょうらい苦しいことにもたえる、根情のある人間になりたい。

鷲津 尚孝  
楽しかった小学校生活、その思い出は、決して忘れないだろう。

古山 尚嗣  
一つのことをまじめにできる人になりたい。

てむずかしいから、がんばろう。

森 まゆみ  
これからは、何事にしても努力努力でいきたいと思います。

小井 千津子  
絶対に、ローラーゲームの選手になりたい。絶対！

谷山 順子  
「卒業」ということは、みんなと別れるような気もちだ。

山下 幸穂  
中学生になっても、六年間の思い出をいつまでも大切に

山村 博美  
私は、中学生になったら六年生より、もっと勉強にはげみたい。

野田 弘子  
中学生になってもいまままでおり、明るくこやかに

森 美補  
目標に向かって、進めるような立派な人間になりたい。

館 美幸  
とうとう卒業だ、自分で六年間もきたとは思えない。うれしい。

間 島 由利子  
どんな困難にも負けず、最後までやりとげられる精神を持つ。

広瀬 明美  
卒業し、中学へ入学する私の心の中は、不安と希望……。

秋山 なおみ  
走馬灯のように過ぎた六年間。でも心の中にはたくさん思い出

六年二組

森川 忠男  
しょうらい苦しいことにもたえる、根情のある人間になりたい。

鷲津 尚孝  
楽しかった小学校生活、その思い出は、決して忘れないだろう。

古山 尚嗣  
一つのことをまじめにできる人になりたい。

古山 尚嗣

遠藤 武志  
一日一日を、大切に生きて、明るい中学校生活を、送りたい。

下岡 洋明  
中学校に行っても、羽津小学校はぼくたちの物だ。

阿部 一夫  
羽津小学校の長い歴史を、いつまでもたいせつにしていきたい。

山本 達也  
中学校になっても、六年間の友だちを、だいにしたい。

渡辺 勝美  
六年間に、ならったことを大きくなくてやくだてたい。

松浦 明世  
今まで、お世話になった先生のことは、いつまでもわすれられない。

西川 淳也  
小学校の思い出は、いつまでも大事に、していきたい。

沼田 靖宏  
正しいと思ったことは、どんなに進めていきたい。

西村 伸  
努力の上に努力を重ね、今後の社会生活にとりくみたい。

松山 竜一  
歌手になって、ゆうめいになりたい。

小畑 竜也  
何度失敗しても、くじけず、努力して、がんばります。

樋尾 謙二  
中学校に入学したら、物を大切に、もっと力を入れたい。

大川 貴英  
ぼくは、中学校に入学したら、いままでよりも勉強をする。

保田 茂  
ぼくは、自分自身の道を、人によらず、まっすぐ進みます。

山本 貞次  
小学校からの夢を、中学校でも持ち続けていこうと思う。

林 茂雄  
ぼくは、けわしい山をこえ、深い川を渡り立派な人になります。

森山 孝  
自分が、正しいと思った道を、まっすぐ進む。

小川 浩之  
小学校の勉強を、頭のことし、中学校の学習にやくだてていく。

藤原 俊彦  
中学校へ進学したら、今までもよりも勉強、運動をがんばる。

藤井 達也  
自分できめた道を、あせらずにこつこつと進む。

南 直樹  
中学生になったら、規則正しい生活をするかくだ。

渡辺 真由美  
六年間のことを生かして、より良い中学校生活をおくりたい。

浦 真由美

小学校生活を生き、中学生生活を、楽しく、明るく、送りたい。

山本 雅智  
小学校六年間は、みじかいようで長いようでした。

森 美刈  
六年間の楽しい思い出をささえて、中学生生活をおくりたい。

荒木 あゆみ  
人生は常に忍耐と努力の前進である。

沢井 美佐子  
純粋な心と体を育て、良識を養い、自己を見つめて成長したい。

藤井 千恵  
先生方のご恩を忘れず希望を持って、社会にはばたきたい。

森 恭子  
六年間、お世話になった先生方を、忘れずに中学校生活をする。

早川 朋代  
自分のことよりも、人のことをたいせつにする人になりたい。

戸次 由美子  
六年間お世話になった校舎、先生、ありがとう、さようなら。

大森 啓子  
今までのいろんな先生にお世話になり、りっぱに卒業できます。

山田 真由美  
六年間の思い出を、胸に抱いて将来を歩みつづけたい。

中西 智子  
校庭の美しい桜。大木の松。

今までもりがんばり、中学生生活を、よいものにしりたいと思う。

山下 香代子  
中学校に、なったら、勉強や運動に、はげみたいと思えます。

相松 みち代  
小学校時代の、友を大切に、いつまでも忘れないでおこう。

岡屋 由里  
小学校の思い出を大切に、将来の希望に向かって努力します。

中嶋 ゆかり  
何事にも、いっしょうけんめいになり、友情を大切にしたい。

宮本 直美  
六年間の生活は、おわりです。小学校の思い出は、忘れません。

山添 久美子  
良い目的を見つけ、実行し、良い中学校生活をおくる。

田島 洋美  
どんな障害でも飛びこえりっぱなインテリアダザイナーになる。

神田 和代  
小学校での友だちと、思い出を大切に。

長谷川 竜代  
卒業しても、みんなと、協力しあっていきたいと思えます。

森 昌美  
小学校を卒業しても、六年間の思い出を、ぜったい、忘れない。

前田 治美  
これからも、小学校の思い出を

この木に負けない中学生に……

長 広洋子  
今までお世話になった先生方の期待にそようがんばります。

榎 谷 紀子  
六年間の日々をたいせつにし、心のおくにしまっておきたい。

福 永 浩子  
どんな壁でものりこえ、清く正しく強い心の持ち主となる。

堤 ゆかり  
六年間に学んだ事を将来に生かし、尊敬される人に努力したい。

都野 公仁子  
やっと若鳥となり生涯で一番美しい時代へとばたいていく私。

森 芳子  
友情で得た苦しみや喜びはいつまでも私の胸に残るであろう。

浦田 絵里  
この六年間で味わった、苦しき喜びはきっと忘れないだろう。

室田 光子  
これまで親切にしてくれた友だちに感謝しています。

中森 輝美  
学校で過ごした長い月日。今、大きな力を抱いて明日へ向かう。

川崎 由美子  
小学生時代を心の思い出とし、中学校生活を大切にしたい。

村上 靖子  
中学生になっても、六年間ともに勉強した友達を忘れません。

早川 恵子  
小学校で習った事を、生かし、勉強にはげみたいと思えます。

六年三組

市川 隆行  
自分の進む道は、自分できめ、正しく進んでいこうと思う。

三村 忠  
これからの生活は、一步一步あせらずに、すすんでいきたい。

山田 英之  
中学校でも、小学校のように、よい思い出をたくさんつくりたい。

中島 正伸  
中学校になっても、自分の道をマイペースで進みたい。

岩崎 英司  
中学生になってからは、今までの以上にがんばろうと思えます。

太田 哲也  
正しい道を歩み、立派な人になるように努力する。

山本 和典  
中学になったら、目標にむかって、つきすすんで、いきたい。

高士 旬治  
正しい道を、一歩、一歩、理解を深めながら進む。

福山 昌弘  
中学生になっても、自分の道をまっすぐ進みたい。

福沢 覚  
今日の考えを、明日につなぎ、考えを深める。

六年四組

井田 明  
長くて、短かった六年間、これからは、計画をたてて、やろう。

加藤 茂樹  
ぼくは、中学生になったら、ほんとうの親友を見つきたい。

土屋 浩二  
ぼくたちが、卒業する年に新校舎ができてとてもさんねんだ。

藤井 雅一  
もう一度、一年生になって、六年間を、すこしてみたい。

森 広司  
中学生になっても、お世話になった先生方を忘れないでしょう。

岩本 透  
グリーンスクールでの、草木の観察が心に強くのこった。

加藤 正彦  
新校舎ができて、こんど新校舎に入る人がうらやましくなった。

広瀬 正和  
もう一年いたい、羽津小学校。

川口 晋  
ぼくは、おこられてばかりいたけど全く、くいはのこらなかつた。

野間 正樹  
中学へ行くと、ぼうずになるのはいやだ。

寺本 賢  
中学校に入学したら、物を大切に、もっと力を入れたい。

大川 貴英  
ぼくは、中学校に入学したら、いままでよりも勉強をする。

保田 茂  
ぼくは、自分自身の道を、人によらず、まっすぐ進みます。

山本 貞次  
小学校からの夢を、中学校でも持ち続けていこうと思う。

林 茂雄  
ぼくは、けわしい山をこえ、深い川を渡り立派な人になります。

森山 孝  
自分が、正しいと思った道を、まっすぐ進む。

小川 浩之  
小学校の勉強を、頭のことし、中学校の学習にやくだてていく。

藤原 俊彦  
中学校へ進学したら、今までもよりも勉強、運動をがんばる。

藤井 達也  
自分できめた道を、あせらずにこつこつと進む。

南 直樹  
中学生になったら、規則正しい生活をするかくだ。

渡辺 真由美  
六年間のことを生かして、より良い中学校生活をおくりたい。

浦 真由美

小学校生活を生き、中学生生活を、楽しく、明るく、送りたい。

山本 雅智  
小学校六年間は、みじかいようで長いようでした。

森 美刈  
六年間の楽しい思い出をささえて、中学生生活をおくりたい。

荒木 あゆみ  
人生は常に忍耐と努力の前進である。

沢井 美佐子  
純粋な心と体を育て、良識を養い、自己を見つめて成長したい。

藤井 千恵  
先生方のご恩を忘れず希望を持って、社会にはばたきたい。

森 恭子  
六年間、お世話になった先生方を、忘れずに中学校生活をする。

早川 朋代  
自分のことよりも、人のことをたいせつにする人になりたい。

戸次 由美子  
六年間お世話になった校舎、先生、ありがとう、さようなら。

大森 啓子  
今までのいろんな先生にお世話になり、りっぱに卒業できます。

山田 真由美  
六年間の思い出を、胸に抱いて将来を歩みつづけたい。

中西 智子  
校庭の美しい桜。大木の松。

今までもりがんばり、中学生生活を、よいものにしりたいと思う。

山下 香代子  
中学校に、なったら、勉強や運動に、はげみたいと思えます。

相松 みち代  
小学校時代の、友を大切に、いつまでも忘れないでおこう。

岡屋 由里  
小学校の思い出を大切に、将来の希望に向かって努力します。

中嶋 ゆかり  
何事にも、いっしょうけんめいになり、友情を大切にしたい。

宮本 直美  
六年間の生活は、おわりです。小学校の思い出は、忘れません。

山添 久美子  
良い目的を見つけ、実行し、良い中学校生活をおくる。

田島 洋美  
どんな障害でも飛びこえりっぱなインテリアダザイナーになる。

神田 和代  
小学校での友だちと、思い出を大切に。

長谷川 竜代  
卒業しても、みんなと、協力しあっていきたいと思えます。

森 昌美  
小学校を卒業しても、六年間の思い出を、ぜったい、忘れない。

前田 治美  
これからも、小学校の思い出を



岡本真一  
修学旅行に、もう一度行きたい。

須藤昌樹  
新校舎ができ、六年生がてつだつたのにはうれしいがイヤだ。

藤井健司  
三年、引力棒でなぐられ、とても痛かったことが忘れられない。

田中成登  
ぼくは、六年間のあいだで中川先生が一番好きだった。

渡辺篤  
ぼくは、はずかしがりやだけどそれを直していきたい。

森寺浩一  
もう一度、くいのない小学校生活を送りたい。

太田裕隆  
長かった、長かった、この六年間の生活。

小川辰晴  
修学旅行で、一ぱくだけでは、つまらなかつた。

岩田真理子  
まちにまわっていた新校舎で中学校生活をすごせたらなあ……。

垣内幸子  
東海自然歩道みんなで歩いた山道のもみじの紅葉がきれいだった。

山川久仁子  
六年間、みんないい先生で、よい思い出がたくさんあった。

森育代  
新校舎ができたのに、卒業して

いくなんて、ざんねんだ。

相松美紀  
いろいろな先生に受けもつていただいてとても勉強になりました。

鈴木さとみ  
もう卒業かはやいなあ。中学校に行かないでこのままでいたい。

大橋香  
もうすぐ卒業。登校の班とも、お別れ。ちよっぴりさみしい気持ち。

藤井里加  
数々の思い出を残し卒業して行く私の心は喜びと不安で一杯です。

上田和枝  
この学校の新校舎のように、新しい気持ちで、進学したい。

畑佐朝美  
一年から六年まで、受持の先生が変わっているな思い出があった。

細谷恵美  
三年の時、先生の病気でクラスが別々になり、いやでした。

福田由味子  
転校してきた時こわかった。卒業をひかえた今はうそみたい。

近藤裕香  
小学校を去っていくのが、とてもおもしろい感じがします。

加藤かおり  
新校舎が建つたのに卒業。一年あとに生まれてこればよかったな。

加藤享子  
みんなと修学旅行に行つて先生におこられたりした楽しい思い出。

安井法行  
修学旅行の時、まくらなげがでさなくて残念だった。

小野浩幸  
クラブ活動で、友だちをたくさんつくりたい。

松永多寿子  
校内球技大会で、力を合わせれば勝るといふことを知った。

谷口公子  
グリンスクールでのキャンプブアイヤーは、最高に楽しかった。

片岡弓子  
緑とゴリラ山に囲まれて過したグリンスクールが、心に残る。

垣内京子  
六年間、くぐりぬけた桜の門。今またくぐりぬけようとしている。

木村知子  
いよいよ中学生だ。どんなクラブへ入ろうかと希望でいっぱいだ。

相松多美子  
思い出多い六年間も、もうこれで終わりだ。今、新しい道へ……

園多香子  
もうすぐ中学生。今までは少しちがう。がんばっていききたい。

伊東由加利  
グリンスクールや修学旅行でみんなと生活したことが楽しかった。

安福敦子  
もうすぐ中学生。大きい目標にむかって、しっかり進もう。

木村洋子  
楽しかった六年間。球技大会、集団生活、みんな楽しい思い出。

児玉友子  
グリンスクールや修学旅行でみんなとねとまりして楽しかった。

井芹由紀  
先生に叱られたこと、ほめられたこと、今ではみんななつかしい。

森智里  
もうすぐ中学生だ。新しい学校生活に胸をふくらませて進学する。

大森圭位子  
私達、球技大会で、男子とも優勝した時、とてもうれしかった。

須藤祥子  
思い出のある羽津小学校を卒業して中学校へ。がんばります。

野村成美  
中学校に行つて、新しい友だちや始めて会う生徒が楽しみです。

野村辰美  
中学生になったら、自分のことは、自分でやってみよう。

福本紀美子  
思い出深い六年間。中学校へ行つてもきっと忘れないだろう。

富永裕美子  
中学生になつても、楽しかった小学校生活を忘れずにいきたい。

水谷恵子  
中学校へ行つたら、友達があふえるのはいいが、テストがイヤだ。

上石千春  
転校して来た時、みんなやさしくしてくれてとてもうれしかった。

水谷満子  
中学になって、友達ができるかな？不安だな。

北村ちよ子  
新しい校舎ができたので、卒業したくないなあ。

内田香王里  
羽津小学校での楽しかった思い出は、せつない忘れない。

六年五組

福田恭二  
中学生になったら、どんな勉強を学ぶんだろうか、楽しみだ。

山田稔  
グリンスクールの夜、さわいでおこられたことがいい思い出だ。

森裕之  
思い出深い六年間でした。経験を生かし、中学生生活を迎えます。

相松義久  
中学生になったら、スポーツ、勉強をもっとがんばっていききたい。

篠田力  
新しい校舎ができた。ぼくも、そこで勉強がしたい。

松永直也  
楽しかったグリンスクールと修学旅行。一生心に残る思い出。

竹内雄  
ぼくは、志摩の中学へ行く、みんなと別れるのがさびしい。

中橋正宣  
もうすぐ中学生になる。どんなクラブに入るか楽しみです。

前田裕司  
中学生になって、よい友だちを作り、勉強にはげよう。

石沢帰之  
もうすぐ中学校だ。どんなクラスになるか、楽しみだ。

茂村一樹  
もうすぐ中学校。どんな教室か、どんな先生がみえるか楽しみだ。

草川理  
新校舎完成。うらやましいなあ。もう一年、学校に残りたいなあ。

下倉俊介  
児童会の行事が、思ったよりむずかしく、苦勞しました。

中脇道秋  
中学校は、勉強がむずかしいので、いやだなあ。

生川理  
もうすぐ卒業。残り少ない日をくいのないようにならう。

川嶋秀典  
中学生になったら、いっしょけんめいがんばります。

一年間を振り返り見て

副会長 伊東礼子

五十年年度の副会長と云う、大変責任の重い役を、仰せつかり、どの様に活動して行けばよいのか、誠に五里霧中の思いで、此の一年間過して参りました。然るに、PTA会員各位の、心暖かい御協力を得、又、幸な事に私には、PTA活動に、大変経験の深い、教多くの友人に恵まれ、PTA事業、其の他の面で、非常に円滑に運びました事、本当に幸せで有ったと心から、感謝致して次第で御座居ます。其の先輩諸氏も、五十年度を最後に、親しみの深かった、羽津小学校を去り、私には、大変思い出の深い一年で有りました。此の一年間を振り返り、心に感じました事は、「和を以て導くと為せ」此の言葉の様に、一つの目的達成の為めには、如何に人の和が大切で有るか、痛切に感じた次第で御座居ます。政治、宗教、一切の利害関係を持たない団体で有るPTAは、私達父母が、純粋な気持ちで、子供達の、学校生活の、良き環境作りの為に、奉仕して行く事は、大変意義の有る事だと思ひます。最後に、先生方の厚い御協力に対しまして、深く感謝致すと共に、今後も、明日の明るい羽津小学校PTAであれと、願つて

一年を省りみて

母親部副部長 鷺津雅子

卒業生の、ご父兄に心からお祝いを申し上げます。五十年度PTA発足と共に、母親部も、食品工場見学、試食会、バザー等の行事を、PTA会員の皆様の御協力により無事終えさせていただきました。それに加え本年度は、お母様方の、和を少しでも広めて行きたいと月二回の手芸教室を開いてまいりました。お集りいたゞきましたお母様方は、和を広げ、手作りの楽しさを味わっていたゞけたと思ひます。バザーには、沢山の作品の出品と、皆様のお買い求めを感謝しております。

サークル活動と致しまして、手芸をしてまいりましたが、母親として、取り上げやうて行く事は、沢山あると思ひます。先月授業参観の折に、四Pから来ておりました「親の目、子の目」の、番組表に目を通していただいたご父兄もおありでしょうが、このような番組を見て、皆様と話し合を持てれば、「断絶」といういやな言葉があります。断絶度を互にやわらげる為にも、現実の子供の考えも聞き、話し合をするの

も有意義でないかと思えます。  
 (名古屋テレビ 11チャンネル  
 金曜日、十一時十五分より)  
 この一年間微力ではございましたが、一生懸命やってみましたが、前記の話を一例として、母親部として、もっとやるべきことがあったのではないかと、反省して居ります。

**会則改定 今後の問題点**  
 文化部会則研究副部長

柏木隆子

会則改定にあたり各役員、委員の方々に御協力いただいたことを感謝いたします。一応会則としての体裁は整いましたが、仏作って魂入れずではいけませんので、一人一人の会員がPTA活動の目的のために積極的に働きかけたいと思います。今後の問題点として来年度に引き次ぎたいことは、  
 一、各専門部活動の内容の再検討  
 二、学級会の活動を活発にし、会員の参加意識をたかめる。  
 三、町別会の活動内容の再検討、特に育成会活動との関連について

以上重要な問題が掘り下げられないままに時間切れとなりましたので、来年度の各役員委員及び文化部の方々に引き次ぎ事項として

お願いいたします。一般会員の方々もこの問題について意見をお寄せください。

**一年間を省えり見て**

環境整備部副部長 森 重夫

日頃PTA活動には、無知の私に、環境整備部副部長という大役を預り、人様の前に立つ事さえ出来ぬものがと、心配しておりますが、先生を始めPTAの皆様の御協力により、一年間無事終えられます事は、偏に皆様の御陰だに感謝致しております。

整備の日には、早朝より出席していただき、花壇の移動、校庭の整備等も無事完了し、管理棟も完成しました事は日頃皆様の影での子供達への愛の賜物ではないかと思ひます。

皆様の御協力ありがとうございます。今後も、PTA活動への御協力を御願ひ致します。

**一年間の反省**

福祉保健部部長 伊藤幸治

春の訪れと共に、羽津小PTA福祉保健部のお務めも終りに近づくはした。

初めてのPTA役員で、ドギマギして居るうちに、一年が過ぎ去ってしまった様な気がします。色々な回顧とか反省をしますと、先

つ浮かんで来る事は、一番に役員皆様の学校行事に対する暖い協力と情熱で、素晴らしい運営がなされている事を痛感致しました。

過去において、先輩諸士が大変な努力をされ、組立てられた道を通ってやって来た様にも思われませんが、新しい行事としては、本年度最初の行事として、学校給食試食会を始め行い、一年生PTA父兄の皆々様の子供の給食状況に御理解を頂いた事と思ひます。

又、反省点として、私も始めて突然のPTA専門部部長という責任のある部署に加わり、大変とまどいを致しました。前年度より引きつぎをリードの事から、何からどの様にやればよいやら、失敗と不充事はかりでした。

私はこの問題点を提起して、本年度より新しく規約改正して頂き五十一年度の新しい部長になられる方に充分のリードをアドバイスを致したいと思ひます。

アンケート調査により、健康保持に運動の大切さを、強く感じました。最近家庭暖房の充実により、大変運動不足勝ちとなっており、冬季には、特に重点的に運動の重要さを感じます。

本年は校舎建設のため、運動場のせまさも有り、充分なプランも出なかつた様でした。新年度の方々に、新しいプランを建議され

益々の充実を心からお祈りする次第です。

**安全部の一年間の反省**

安全部副部長 山田佳良

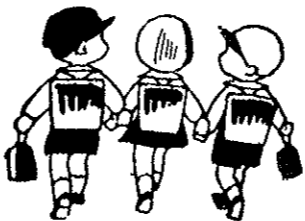
この一年間を振り返り見て、安全部としてはなにも別に書く様な事はありませんけれど、七月十六日(十八日)にかけて実施された、自転車点検では、安全部の部員さんには町別で分けていただいたが、どうもご苦労さんでした。

子どもの自転車点検して、ワッペンをはってやると、うれしそうな顔をして、「ありがとう」と。

上級生の新しい自転車が目について、下級生の方は、お兄さん・お姉さんの古いのか、悪くなっている所が多い様に思いました。

その後、安全部としては、活躍することもなく終わってしまった様なわけでした。

今後、安全部ではなく、もっと具体的な方針をたてていただきたいと思っております。



**児童作品**

**もう春だ**

四年三組 内山睦之

もう春だ  
 あたたくくなった  
 さくらもさいた  
 あたらしい  
 一年生もはいた  
 友だちも、先生もげんきだ  
 いろいろな花が  
 さき出した  
 もうほんとに  
 春だな

**二年生になったら**

一年四組み いちえんのりこ

二年生になったら、下に一年生が、はいてくるから、一年生のめんどうを、みてあげようとおもいます。

わたしが、一年生のときは、学校に、いくのが、おくれて、六年生のおねえさんに、むかえに、きってもらったりしました。これから、おねえさんたちを、こまらせないようにしよう。

二年生に、なったら、くみが、かわるから、つまらないなあ。せっかく、おともだちに、なつたの

に、かわつたら、さみしいな。もうちよつといっしょに、いられば、いいのになあ。でも、あたらしいおともだちも、みんな、なかよく、べんきょうしたり、あそんだりしよう。

二年生のべんきょうは、一年生のべんきょうよりも、むずかしいから、がんばってやろうと、おもいます。

**春**

四年三組 溝口 隆

春風が ふいてきた  
 あたたくい風だな  
 もう たんぼほの花も  
 さいている  
 もんしろちようも とんでいる  
 さむいふゆも として  
 春がきた  
 そうだ 春だ  
 もう 春が  
 きたんだ

**おさんば**

一年四組 森田 洋子

わたしは、このまえの火曜日に、おかあさんと、いもうとのきょうこちゃん、ともだちののり子ちゃん、とたるさか山へいきました。はじめにおたまじゃくしを見ましたら、まだ、たまででした。とてもたくさんありました。かげつきは山をのぼりました。かげ

くづれみたいでしたけどのぼっていききました。

つくしんぼうをとりきたんだけれど、ぜんぜんありません。すこしいくと、くさはえてるところを見たら、つくしんぼうがはえていました。

わたしは、のり子ちゃんとなかまになつてたくさんとうとうおもいました。おかあさんが「もつと大きくなつてから、またとりこましよう」といいました。わたしは「もつと、とりたい」といいました。おかあさんは「いってしまいました。わたしはつくしんぼうととりをやめて、おかあさんのところへいきました。」

すこしいくとちくさがはえていたので、つんでかえりました。かえつてから、おかあさんが、くさもちをつくつてくれました。わたしといもうととたべました。とてもおいしいくさもちでした。

**友ださ**

四年四組 山本 治子

わたしの組に、おもしろい子がたくさんいます。とくに山添千恵美さんは、とてもおもしろいです。山添さんとは、一年生のときから同じ組でした。だから大のなかよしです。山添さんのおおは、目が大きく

色が白く、おでこがでているおもしろいおです。

つきにおもしろい子は、中野理香さんです。なにもしてないのに、かみの毛をひっぱったり、頭をたたいてきます。

「五年生になつても、同じ組になれるといいね」と、いつていたのですが、一人ひとりで、とてもさみしいです。一ヶ月ほどたつて、先生が、「中野さんもひっこします。」と、いつたので、悲しい気持ちになりました。

でも、たくさんのお友だちがいるので、さみしくなんかないです。わたしは、山添さんと、中野さんと文通するよう決めました。この文通を、いつまでも、いつまでも、つづけていきたいと思ひました。

**サークルのおわび**

文化部サークル

文化部コーラスサークルの部員を募集しながら、管理棟の建築・先生の都合等のため実施出来なかつたことを、紙面をお借りして、深くおわび致します。

# 「回想の小学校時代」

小学五、六年の頃  
教頭 小塚久美雄

運動会が近づく連日、先生の叱声の中に厳しい練習が続く、しかも六時間目のあと秋の日の西の空に姿をかくす頃までも、「天にかわりて不義を討つ、忠勇無双の我が兵は……」、とうたいながら……運動会恒例の掉尾をかざる。

五・六年生男子騎馬戦を演ずるためにその入場行進に、このうたをくりかえす、足なみをみだすとめ竹のむちで足のふくらはぎを打たれる、演技の練習を終ると退場行進、「ぼんだの桜かえりのいろ、花は吉野に嵐吹く、大和男子とうまれなば……」とうたいながら……姿勢が悪いとまたやりなおし、この時の先生のこわさ、きびしさをしみじみ感じたものでした。

「朕惟うに……」と今では使われない漢字を使って雁皮紙に毛筆でしかも暗記で書いたこと、当時苦しかったことも今はなつかしい思い出です。

私達昭和、一ケタは、二宮金次郎世代というか、薪を背負ってないと、本が読めないのである。薪を下してしまおうと、かえって何も出来ないものである。いつか、子離れしてからやろうと思っっている中に年をとってしまおう。

私は、この様に、薪を背負って

# 余暇も 洋画の道

秋山昭子

私が本格的に中央公募展に油絵を出品するようになって、かれこれ十五年になる。

当初は子育ての最中で、次いで次女の産後や、病氣、手術、長女の受験と相づく悲喜交々の十五年間であった。

主婦の仕事には、際限がないので余程気をくばっていないと、うかうかと余暇を見ずしてしまっている。そこで手早く家事を片づけて、自分の時間を創り出す工夫をするのである。そして創り出した僅かなコマ切りの時間ではあるがこの時間が一日中で一番充実した楽しい時間なのである。

このコマ切りの時間をつなぎ合わせるから、ただ趣味で描いている時よりはよいが、展覧会に出品となると期限はあるし、仲々苦勞で楽しいどころではない。ただ我れを忘れて、入落など眼中になく描くのであるが、やはり、出品する以上入選しなければならぬ。その度に、

まるで入試をうけている思いである。そこで一たび、入選、入賞の報せが入ると、子供は「ママよかったね」と忽ちわが家は感激に湧くのである。日頃は、足を引っぱる事ばかり口にしてはいる夫も、ニコニコして「おめでとう」と喜んでくれる。こんな時、今までの苦勞も思わず吹きとんで、暫し幸せ感をかみしめるのである。又反対に落選して、身も心もずたずたに、がっくりしている時、心から慰めてくれるのもまた家族ならではである。

家事の多忙も病氣も、作品の佳し悪しの何の理由にもならないのだから、芸術の道は厳しい。

こうして、競争率五十倍という入試に年に二・三回挑戦するのであるが、しかし、こんな事が、わが家の倦怠期を救っていているのかもしれない。

私は、今も目を閉じると、小学校時代、教室の黒板の上に「やれば出来る」と書いて掲げてあった言葉がはつきりと浮かんでくるのである。そして、ともすれば、くず折れ勝ちな私を常に、勵ましてつけてくれるのである。

私は日展に初入選した時、真先にこの小学校の恩師にお礼の手紙をかいた。先生は、大変お喜び下さって、この事を、その頃中学校の校長をしておられて、「卒業式

に話した」とお返事をいただいた。そして又、ある機関紙に師弟の交流について此の事をかいて送っていただいたものである。

私達昭和、一ケタは、二宮金次郎世代というか、薪を背負ってないと、本が読めないのである。薪を下してしまおうと、かえって何も出来ないものである。いつか、子離れしてからやろうと思っっている中に年をとってしまおう。

私は、この様に、薪を背負って

いてこそ、生活にはりができて、すきな仕事が出来ると思う。そしてこの頃つくづく自分に言いかけさせるのであるが「子どもに手をかけすぎが、決していゝ事ではない」と。私は「子離れ」「夫離れ」を生後教育とあって、「よい絵というものは心の力である」と言った村上華丘の言葉を自戒として生涯、画を生き甲斐として描きつづけたと思うのである。



## PTA 意識調査

(今年度の反省)

### アンケート結果

- PTA 会員総数九三〇名  
解答者総数 八二七名(率八九%)
- PTA 活動に関心がありますか。  
1 ある。二七六名(三三・四%)  
2 少しある。四八六名(五八・八%)  
3 全々ない六一七名(七三・三%)  
4 無記入 四名(〇・五%)
  - 本校 PTA がどんな活動を行っているかご存じですか。  
1 知っている一二五名(一五・一%)  
2 大体〃 五八名(七・〇・九%)  
3 全々なし 一〇九名(一三・二%)  
4 無記入 七名(〇・八%)
  - この一年間に PTA 行事に進んで参加されましたか。  
1 した (一五・六%)  
2 大体した四五一名(五四・五%)

- 3 全々ない三三七名(三八・七%)  
4 無記入 一〇名(一・二%)
- 四現在の PTA 活動についてどんなものを行ったらよいと思うか。  
1 学習参観 四八名(五・六・一%)  
2 学級懇談会 四四名(四・一・六%)  
3 町別懇談会 一九名(二・三・五%)  
4 文化サークル (一八・一%)  
5 運動サークル (二六・二%)  
6 講演会 二〇三名(二四・五%)  
7 学習会 一一二名(一三・五%)  
8 見学会 一三七名(一六・六%)  
9 無記入 七一名(八・六%)
- 五現在の PTA の行っている活動についてのご意見  
1 活潑である六三名(七・六%)  
2 普通 六五四名(七九・一%)

- 3 低調 六二名(七・五%)  
4 無記入 四八名(五・八%)
- 六しでがのを読まれますか。  
1 よく読む 三七二名(四五・〇%)  
2 大体よむ 四〇名(五・〇・八%)  
3 よまない 三〇名(三・六%)  
4 無記入 五名(〇・六%)
- 七 PTA 会員同志の親睦について  
1 親睦の機会を作りたい 四一四名(五〇・一%)  
2 余り考えない。八三名(一〇・二%)  
3 無記入 一三〇名(一五・七%)
- 八学校や PTA 子どもの教育について、悩みや不満、意見などある場合、どうしますか。  
1 担任に相談する 一一四名(一三・七%)  
2 親同志話合う 一三二名(一六・〇%)  
3 話す機会がなく困っている 二五名(三・〇%)  
4 自分の考えや書物で勉強する 一六名(一・九%)

- 5 意見投書函を作ってほしい 三名(〇・四%)  
6 無記入 五三七名(六四・九%)
- 九本校 PTA 全般についての意見  
1 PTA 会員相互の密接なつながりがほしい。役員丈の活動にならず、末端迄、浸透してほしい。 二六名
- 2 学習参観、懇談会を、学年別に日をつけて行ってほしい。 六名
- 3 役員の方々ご苦勞様です。
- 4 PTA の新しい活動をのぞむ。
- 5 学習参観は月一回行ってほしい。
- 6 集団下校を実現してほしい。
- 7 過保護的な事をしないこと。
- 8 夏の学校清掃作業は、子供も共にやらせるべきだ。
- 9 クラス編成毎に、記念写真をとってほしい。
- 10 制服を作ってほしい。

11 立哨について、子どもに交通教育をのぞむ。  
 12 役員メンバーがいつも同じで新鮮味がない。  
 13 地元の勢力争いがある。  
 14 先生方の、PTA協力を望む。  
 15 町別懇談会を強化してほしい。  
 16 PTAの意義がよくわからない。もう一度考える必要がある。  
 17 PTAをなくした方がよい。  
 18 PTAを、こき使いすぎる。  
 19 PTAが、余り学校に対して強い発言するのはよくない。  
 以上のご意見は一、二名づつ、

プロフィール



四年二組担任 菊村文子

三重県三重郡菟野町 ホームドラマ



四年三組担任 村木政子

六人兄弟の長女として育った私は、小学校四年になるまで祖母の愛を一身に受けて育つ

この外は無記入でした。編集部では一年間の反省のまとめを編集したいという企画で、アンケート調査をいたしました結果、大多数の回収率をあげることができ、ご協力をいただき、ありがとうございました。  
 この結果によりまずと、日頃PTAに対する関心も高く、行事にも、半数以上の方が参加して居られる事が、うかがえます。  
 PTAの活動に対する希望は、学習参観、学級懇談会が圧倒的に多数で、九七%を占めています。

ついでに町別懇談会と、そしてサークル活動と、後にもご意見が出てまいります。会員相互の親睦の機会を作り、意見の交換をおこない、役員が活躍するPTAでなく、全体が密接なつながりをもって、大いに勉強し、又お友達を作って楽しみたいという、これは勿論、先生方の(T)参加も希望しています。体育振興会も出来た事だし、体力作りも叫ばれている。昨今、運動サークルや、文化サークル、学習会、講演会などを通じて親睦をはかれば自然に、盛り上

って行くのではないのでしょうか。残ったあし跡が、すべてを評価してくれるでしょうが、その評価を次の段階にどう役立てるか、今年度に取りこぼした課題を、来年度への宿題として、益々発展していくことを祈りたいと思います。  
 最後に、しでの購読率九五%という、ご愛読をいただき、感謝のほかありません。不手際な編集を心からおわびいたし、多勢の方々の御協力に、心から感謝いたします。



五年一組担任 志村量勝

三滝川の中流に当たる純農村 神前の産

ニユース。プロレス 真実一路

先づは健康 盆栽。飼鳥。養鯉。



五年二組担任 水谷きみ子

四日市市北川原町二四七 ホームドラマ

読書、レコード鑑賞



四年四組担任 三村恵子

津 特になし(色々見るため) 気楽に楽しく 清く、正しく、美しく。 旅行



六年二組担任 朝熊通子

富田遠洋漁業の港に近く海拔0米の所 ニユース解説、ロードショウ 敬天愛人 ヒトとしての本然の姿をみつめながら、自然の法則にさからわず、生かされていることに感謝できることは尊いことだと思えます。



六年五組担任 中林るみ

一志郡美杉町、四方が山にかこまれた寒村、母校の小学校が今年から廃校になります。 ニユース(ニユースセンター 九時。ドラマ(パンチDEデート)



六年三組担任 小林秋次

四日市西日野町 笹川団地の北隣、自然に恵まれた町(曾ては桜の名所であった)八月十五日大念仏行事が行われる(大四日市祭に参加した) 新坊ちゃん。風と雲と虹と。 誠実



音楽専科 山本滋代

津市……(城跡があり、昔ながら非常に落ち着いた町で現在も昔をしのびせる旧家市。 みんなの歌、連続物語 「心に太陽をもち、口びるに



六年一組担任 川村審也

津市の農村(現在は洋らんの産地) NHK特派員報告 花には水 人には愛 趣味は園芸



写真 内山治男

新廣中老松町四九四 緑に囲まれた田園都市 スポーツ、映画、11PM 新日本紀行



五年五組担任 豊鳥久雄

度会郡小俣町 伊勢市に隣接する環境の良い町です。 スポーツ番組



五年三組担任 仲村ゆき子

安芸郡美里村 津から車で二十五分の農山村三ヶ村合併してまだ村。母は、現在全校生徒教八十名 静かで水と空気がきれい。おとずれると、四方山に囲まれ緑の中で心が洗われるように思います。 新日本紀行。歌のアルバム 今日やろうとした事は必ず今日片付ける。 子供達には容易な事で喜びを味わうのでなく、苦しんだ後の喜びを味わえる人になってほしいと願っている。



五年四組担任 平野隆子

兵庫県神戸市。山と海に分れた町で歴史的な場所として鶴越えや、一の谷など、小学生時代はこうした所ですごしました。 明るい農村。洋画。ふるさと紀行。 計画のある生活をする事。 別れない。



いつも歌をもつて」  
毎日明るい日々を……」

- 4. 音楽、レコード鑑賞、ピアノ
- 5. 養護教諭



伊藤光子

- 1. 桑名市安永町八九八

主事



太田久子

- 1. 鈴鹿市五祝町

業務員



水谷富美子

- 1. 四日市市十志町四八

三年 組担任



服部みさを

- 1. 四日市市詩田

### 常任委員会だより

去る三月八日(月)七時から新旧町代表さんを含む来年度PTA新役員選挙委員会が開催されました。新しいPTA選挙規程に定められた通りしん重に審議され、会長候補三名、副会長(女子二名を含む)候補四名を選出していただきました。以上各候補者の中から

来る四月に開かれます全員委員会に於て会長一名、副会長二名(男一、女一)が投票により決定されますことを御報告申し上げます。

### 話のビュツフェ

醒めた目で

教育に取り組み  
週間時事より

去る一月二十三日より大津市で開かれた教育研究会より、「遅進児に百点をとりあげる」という発表の要旨をとりあげると

下町にあるこの学校は、非行少年をかかえ、生徒の勉学の成績もかんばしくなかった。そこで、「バカでもよい。たくましく育ってほしい」ということを信念としていた体育教師でさえ

「バカではダメだ。頭も良くなければ」と発言するようになった。このとき、加藤教諭は二十年間もくだらないと思いついてきたテストを使って、生徒に勉強への意欲を起こさせる実験をしようと思いついた。

かくして一昨年四月から「自律的、自発的な子供づくりを……すべての生徒に百点を取らせる教育をスタートさせた。勉強の出来ない子供は、学習意欲のない子供だが、意欲のわかないのは、いつもだれかに何かをやらされてきた

からだと思い直し、また学習の指導目標なども、指導要領にこだわらず思い切って下げてみた。

この結果、一学期、二学期の間、期末テストで、A君は、二十四点、三十六点、七十六点、百点と伸び、二学期中間で四人だった「百点っ子」が、期末には三十一人に増えた。

「偏差値二十二の遅進児がついに百点をとったんです」と報告すると、会場を埋めた先生たちは感動した。しかしやがて「テストで百点を取れば、果たしてそれだけで、わかったという評価になるのか」「点取り主義助長になりかねない」といった疑問や、批判が次にとび出した。

これに対し加藤教諭は「私もこれで学力がついたとは思っていない。」と答えつつも「いかに人間らしく育てるか」といった議論の中で、出来ない子の学習意欲をかりたてた点で、また受験一本やりの学校教育に疑問を抱きながら脱却できずに悩む先生方に一つの波紋を投げかけた。

### ですく

さいど

▲いよいよ、本年度最後のしでのをお届けする事になりました。

▲しでののは、PとTと児童三者共同のコミュニケーションの広場として、一人でも多くの方々にご登場いただきたいという趣旨で、沢山の方々に協力いただきありがとうございます。

▲「話のビュツフェ」「余暇を楽しく」「常任委員会便り」も好調に終ることができました。

▲今月は、卒業記念と、PTA本年度のまとめの特集号として、編集いたしました。

▲ご多忙の中から教育長様始め皆様方から、お祝いのお言葉をいただき厚く御礼申し上げます。

▲能力不相応で、冷や汗をかいたり、デットロックにのり上げたり、それでも、スタッフ一同、せい一ぱいやつてまいりました。お蔭で、いろいろ勉強もさせていただきました。

記  
編集子・A

P 秋山 一円 市川 岡嶋

大森 沢井 城田 宮嶋

山下 中山 小林

T 内山 小林